

経営管理科 3年D組

教科	商業	科目(単位)	課題研究 企業・商品研究講座 (3単位)
使用教科書	—		
授業形態	通常授業 ・ 分割授業 ・ T T		

1 科目の目標

商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 科目の内容と授業の進め方

〈前期：4月から9月〉
 ・それぞれの生徒が目標とする資格取得に必要な知識、技術の習得を目指し学習する。
 (珠算電卓検定・ビジネス文書検定・簿記検定・情報処理検定など)
 ・資格取得でつけた力を応用して作品を制作する。
 (資格取得のための学習方法のまとめ・グラフや図を挿入した文書作成など)
 〈後期：10月から2月〉
 ・今まで学習した商業の学習を基本として、生徒の興味・関心、進路希望に応じた内容の調査、研究、実験、作品制作および発表を行う。(個人またはグループ)

3 学習の方法

- ・各自が教材を準備し、検定日までの計画を立てる(授業および家庭学習)。
- ・計画通り取り組み、計画通り進んでいない場合は、計画の見直しを行う。
(模擬試験問題集・過去問題など)
- ・研究テーマを設定する。
- ・研究テーマに必要な教材となるものを調べる。(ノート、コンピュータ、新聞など)
- ・計画を立て、実行する。
- ・研究結果をまとめ、各自の研究成果を発表する。

4 課題・補習について

- ・毎時間の取り組みの計画を立て振り返りましょう。
- ・各自の目標への進捗状況を確認します。

5 この授業で取得可能な資格(検定試験)

- ・全商珠算・電卓実務検定 1級
- ・全商ビジネス文書実務検定 1級
- ・全商情報処理検定 1級
- ・全商簿記実務検定 1級
- ・経産省情報処理技術者試験(ITパスポート)

経営管理科 3年D組

教 科	商 業	科目(単位)	課題研究 企業・商品研究講座 (3単位)
-----	-----	--------	----------------------

6 年間の学習計画

月	単 元 名	学 習 の 内 容	評価方法 (課題等)	
4	電卓の部 ビジネス計算	<ul style="list-style-type: none"> 円、ドル、ユーロの端数の処理法を学習する。 利息、元利合計、割引、手取金、終価を求める計算を学習する。 代価計算を含む売価、損益の計算や手数料、定額法と定率法の計算及び減価償却計算表の作成を学習する。 	行動観察 提出物 授業内テスト	
5	ビジネス文書実務の部	<ul style="list-style-type: none"> 表やオブジェクトを含む文書やテキストファイルを含む文書を、指示に従って体裁よく作成する方法を学習する。 	行動観察 提出物 授業内テスト	
6	簿記の部	<ul style="list-style-type: none"> 原価の概念、原価の目的、製造業における簿記の特色と仕組みを学習する。 材料費、労務費及び経費の計算と記帳を学習する。 個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算を学習する。 製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳法や製造業の決算を学習する。 	行動観察 提出物 授業内テスト	
7	情報処理の部	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算の目的と手順、原価差異の原因分析や損益計算書の作成を学習する。 直接原価計算の目的と損益計算書の作成や短期利益計画を学習する。 	行動観察 提出物 授業内テスト	
8		<ul style="list-style-type: none"> ハードウェアやソフトウェア、通信ネットワークや情報モラル、セキュリティに関する用語を学習する。 表計算ソフトの関数や機能を活用し、情報を分析、処理する方法を学習する。また結果を表現する方法を学ぶ。 データベースに関する知識を学ぶ。 模擬問題集を活用し検定学習をする。 		
9		全商珠算・電卓実務検定 全商情報処理検定 全商ビジネス文書実務検定 全商簿記実務検定 各種1級 経産省ITパスポート		
10	【企業・商品研究講座】 (ビジネスプラン)	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマを設定する。(個人またはグループ) 研究計画を立てる。(場所・日程など) 研究に必要な道具を考え、調達ルートを考える。 	研究テーマ設定	
11			行動観察	
12		<ul style="list-style-type: none"> 研究結果をまとめる。 	課題提出	
1				
2		課題研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表を行う。 発表を終えての反省を行い、来年度への引き継ぎをする。 	発表評価 課題評価